
部室の主はあくびする

くーやん屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

部室の主はあくびする

【Nコード】

N4757Z

【作者名】

くーやん屋

【あらすじ】

日常は呆れるほど下らないものでできている。それを变えるのは自分なのか、それとも別の何かなのか。それは考えても仕方ないことなのかもしれない。

普通の高校に存在するある一つの部室をなんとなく使っている高校生
の物語。

序章

『世の中には幸も不幸もない。ただ、考え方しだいでもなるものだ』

これはシエーク・スピアの言葉らしい。ネットサーフィンをしていて偶然見つけたものだ。

シエーク・スピアってのがどういった人であるのか自体よく知らないあたしにとってこの言葉は何も意味をなさない。

例えばクリスマスにおいて人気なあの子供がいたとしよう。それはどこから来るのかと考えている無垢な子供がいたとしよう。それはどう考えても無駄なことだ。サンタとかいう赤服ぼつちやりじーさんは想像上の存在であり、どこから来るにも来れるわけがないからだ。いくら考えようがそれは変わらない事実で、いつの日かそのサンタが中年のコスプレであると気付くまでその子供は無駄な思考を巡らせることになる。

どうにもならないじゃないか。

いくら考え方を変えようとそれは不変の事実だ。考え方しだいでもうどうでもなるならその子供はいつかサンタに会えるということになってしまう。

だが、そんなことはありえないわけであって、残酷な……いや、これはちよつと言い過ぎた。そこそこショックな現実というものに突き当たって順応していく。それが進歩であって成長であるのかという考察はどこぞの学者に任せておくとして、つまり何が言いたいのかと言うと、いないものはいないってこと。考え方をどう変えようとも存在しなかったり、いなくなってしまうたりしたら会えないのであって、それはどうにもならないことなんだ。

と、そんな小難しいことを常日頃考えているわけでもない。というよりほとんど考えないし、自分でも意味がわからない。

粗末な脳の片隅からなかなか離れないシェーク・スピアの言葉はただそこにあるだけ。右手はまったく影響されることなくノートパソコンのマウスをクリックするのだ。

そして何でもない日常の真っ只中。その一部である静かな部屋で伸びをしてからあたしはあくびをする。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4757z/>

部室の主はあくびする

2011年12月16日01時53分発行